

# 市民共同おひさまプロジェクトレター

No.11

《編集・発行》かわさき市民共同おひさまプロジェクト 2013年11月15日

## 自然エネルギーであそぼうパート2 川崎市子ども夢パーク

2013年9月23日に開催、約400人が参加しました。新しい企画は牛山泉先生のワークショップでした。

### ●子どもワークショップ（会場は全天候型ひろば） 「自然エネルギーのすばらしさ」

講師：牛山泉先生（足利工業大学 学長）

「羽根の多い風車と少ない風車、どちらが早く回りますか？」牛山先生が、集まったたくさん子どもたちに質問を投げかけ、子どもたちが考えた後に実際に実験を行って検証するという、子ども向けの楽しいワークショップが行われました。風車は羽根が少ないほうが早く回るのですが、ゆっくり回る羽根の多い風車のほうが重いカゴを釣り上げられる力持ちという結果。子どもたちは興味津々で身を乗り出して参加していました。

### ●講演会（午後開催。会場は多目的室）

自然エネルギー全般のお話に始まり、個々の自然エネルギーの特性や現状、今後の見通しについて解説いただきました。30名あまりの参加者が熱心に耳を傾けました。（三枝信子）



屋外では、昨年に引き続き、太陽光発電、発電した電気をキーボードに使う、水の浄化、太陽熱温水器、風力発電、自転車発電、ソーラークッカー、バイオマスクッカーなどが展示され説明も聞くことが出来ました。また、BDF燃料の自動車の試乗も出来て、エネルギーのことを楽しく一緒に考える機会になりました。



【協力】川崎市新エネルギー振興協会、サン・ネイチャー・クラブ、(株)トップウォーターシステムズ、(社)ソーラーシステム振興協会、省エネグループ、太陽電音(株)、ソニー(株)、NPO 法人川崎市民石けんプラント、ソーラーチーム、NPO 法人川崎フューチャー・ネットワーク、川崎市地域女性連絡協議会、NPO 法人ぐらす・かわさき、麻生区クールアース推進委員会、川崎市地球温暖化防止活動推進員

【後援】川崎市、川崎市教育委員会、川崎市地球温暖化防止活動推進センター

【主催】かわさき市民共同おひさまプロジェクト、川崎市子ども夢パーク

子ども夢パークは、2003年7月に川崎市が『子どもの権利に関する条例』をもとにつくった施設で、2013年7月に10周年を迎えました。12月1日には記念式典が催されます。おひさまプロジェクトは、自然エネルギー施設を設置出来ないかと、子ども夢パークの関係者の方々と一緒に検討しましたが、実現していません。

# 自然の恵みからつくる **自然エネルギーであそぶ！**

今年は 11 団体のご協力によりさまざまなものが会場に集まり、  
子どもも大人も間近に見たり触ったり楽しく体験しました。

会場を全部回ってスタンプを集めると参加記念品がもらえるスタンプラリー。とても好評です。記念品提供については、ソニー(株)、(株)トップウォーターシステムズ、川崎市地域女性連絡協議会、川崎市環境局などご協力をありがとうございました。

写真担当は、石川潤一・大槻哲史

## ☆おひさまのチカラを活用する☆

### 1. 太陽光で電気をつくる

(川崎市新エネルギー振興協会)



### 4. 太陽の熱でお湯をわかす

((社)ソーラーシステム振興協会)



### 2. 発電した電気をキーボードに使う

(サン・ネイチャー・クラブ)



### 5. 太陽の光を集めて料理

(ソーラーチーム・麻生区クールアース推進委員会)



### 3. 発電した電気で水をきれいにする

((株)トップウォーターシステムズ)



## ☆風のチカラを活用する☆

### 6. 風で電気をつくる (太陽電音(株))



手前は 8. 足でこいで電気を貯める/太陽電音(株)



☆人のチカラで電気をつくる

7. 手でまわして発電 (省エネグループ)



9. 手でふって発電 ミニトレインを走らせる (ソニー(株))



10. てんぷら油からの燃料で自動車を走らせる (NPOかわさき市民石けんプラント)



☆木質バイオマスクッカー

(NPO川崎フューチャー・ネットワーク)

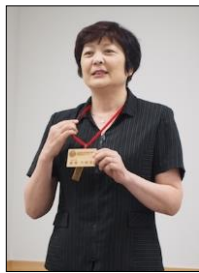


たき火でパンを焼く  
～福島の子もたちと共に



2013年4月春休み、「福島の子もたちと共にかわさき市民の会」主催により、原発事故の被災で外遊びが十分出来ない子どもと家族を招いて「保養」が行われました。夢パークは、その会場のひとつとなっています。おひさまプロジェクトは、ソーラークッカーで調理したソーセージを提供する予定でしたが、あいにくの雨。残念。

会場では、子どもも大人もスタッフの用意したパン生地を竹の先に巻き付けて、たき火にかざし焼きました。その美味しかったこと！その他に豚汁やおにぎりをほおぼって、安らぎの時を楽しんでいました。ところで薪は立派なバイオマス（自然エネルギー）ですね！（飯田和子）



講師：服部乃利子さん（しずおか未来エネルギー(株)代表取締役社長）

服部さんは、静岡県地球温暖化防止活動センター（指定団体：NPO アースライフネットワーク）のゼネラルマネージャーでもあり、従来から静岡県内で地球温暖化防止に関わってきた方です。

昨年末にしずおか未来エネルギー(株)を立ち上げる前段には、環境省「地域主導型再生可能エネルギー事業化検討業務」に対して、静岡市とアースライフネットワークが共同提案しました。採択後、「ストップ温暖化！清流の都しずおか創造推進協議会連絡会」を市民団体、自治会、エネルギー事業者、事業者団体、静岡市が参加して立ち上げました。オブザーバーとして地域金融機関

にも当初から参加してもらいましたが、結果的には金融機関の参加が大きな意味を持ったそうです。

連絡会では、プロジェクトの基本コンセプトを“コミュニティソーラー（みんなで創る地域発電所）”の設立として、中小規模の太陽光発電を市民参加で創設することと目指すこととしました。

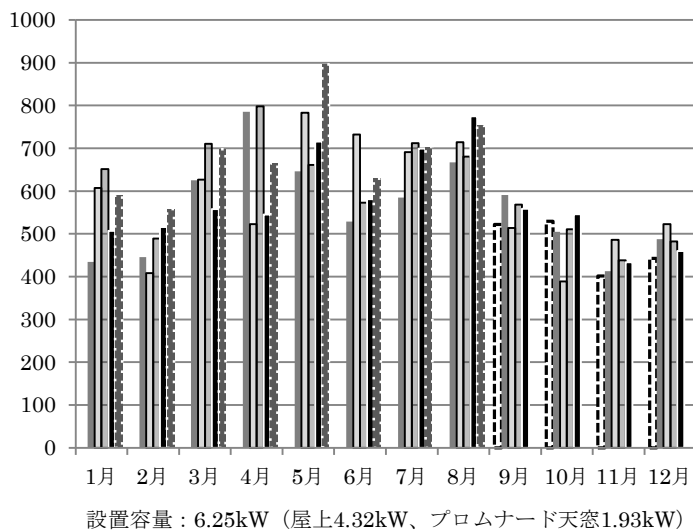
以上の議論を踏まえて事業会社（SPC）を設立しました。当初の事業規模を8千万円（金融機関融資：4千万円、市民出資：2千万円、自己資金（資本金等）：2千万円）と設定し、市民出資の募集を開始しました。市民出資の募集内容は、返済期間5年、一口5万円、「5年間5万円」この分かり易さから、2千万円の目標が達成できました。

設置場所の公共施設との調整、工事費の縮減、金融機関からの融資条件など様々な課題を克服して、本年6月に発電事業がスタートしました。服部さんは、地域の強み（日照時間が全国トップレベル）、行政担当者との連携、地元企業・金融機関との連携が何より重要であり、そのためにも、事業の構想時点からの仕組みの重要性を強調していました。最後に、川崎の地元から、竹村英明さん、三枝信子さんからの報告、川崎市環境局地球環境推進室長の大澤室長からの挨拶がありました。川崎において、市民・事業者の関わった再生可能エネルギー事業を進めるための重要な講演会となりました。（廣瀬健二）

## 国際交流センターin市民共同おひさま発電所 ～ おかげさまで5周年～

2008年9月～2013年8月の発電量は約36,000kWh、順調に発電しています。

■ 発電量kWh 2008年 ■ 発電量kWh 2009年 □ 発電量kWh 2010年  
 ■ 発電量kWh 2011年 ■ 発電量kWh 2012年 ■ 発電量kWh 2013年



2008年8月24日に川崎で第1号の市民共同発電所が国際交流センターに完成しました。モトスミブレイメン通り商店街をはじめいろんな場所で地球温暖化防止を目的に募金活動を展開、市民の手で太陽光発電設備を設置することができました。ロビーには、寄付してくださったかたのお名前をパネルにして貼っています。また、表示モニターによって発電の状況をグラフやイラストでわかりやすく「見える化」しています。この5年間の発電量は約36,000kWhです。

この活動は、1999年に川崎市地球環境保全行動計画推進会議の市民部会初代部会長だった飯田和子さんが、エネルギーグループで市民共同発電所の設置を提案されたことが始まりで、新エネルギービジョンの改定、NPO 法人アクト川崎の発足が追い風となり動き出しました。おひさま1号機の完成が原動力となり、2011年2月22日、2号機として川崎フロンターレ麻生クラブハウスの太陽熱温水器設置につながりました。

川崎市社会功労賞受賞！飯田和子さんは、長年にわたる川崎・ごみを考える市民連絡会の3R推進等の活動とともに、麻生区クールアース推進委員会やかわさき市民共同おひさまプロジェクトの先駆的で幅広い市民活動が認められ社会功労賞を受賞されました。11月7日、国際交流センターにて贈呈式が執り行われ、幸いにも会場は1号機設置の場所となり、祝賀会スピーチでは1号機について話され会場が盛り上がりました。（岩本孝子）



編集後記 フィリピンを襲った巨大台風被害は、まるで3・11津波被害の状況と聞きびっくり！現在ワルシャワでCOP19が開催中です。今後ますます台風や干ばつ、海面上昇など地球温暖化と関連する被害の増加が懸念され、特に発展途上国の貧しい人々を苦しめ、そこへの支援が議題の一つとされています。温暖化対策にはコストがかかっても、それは必要経費とし、自然エネルギーを導入し対策をすすめる必要性を強く感じます。（飯田和子）

発行人  
 かわさき市民共同おひさまプロジェクト  
 代表：岩本孝子  
 〒212-0012 川崎市幸区中幸町3-26-24-1211  
 電話：044-200-4109 FAX：044-556-0585  
 メール：ohisama@r2.ucom.ne.jp